

# 社会教育指導員の部屋

2021.12月

生涯学習課 社会教育指導員 伴野 洋子

## 避難所開設体験研修～段ボールを再利用してプライベート空間を作る～

12月12日（日）佐久市ジュニアリーダー研修を見学しました。

ジュニアリーダー研修とは・・・生涯学習課青少年係の事業で、佐久市内の小学校5・6年生を対象に年間15回行われています。

この研修は、子どもたちの生活体験・自然体験・社会体験の不足が指摘されている中で、野山での自然体験や環境浄化のボランティア体験等、多彩な体験機会を設け、「生きる力」を持った人間性豊かな子どもの育成を目指しています。また、市内各地区から研修生が集まり、一緒に活動することにより、広範囲の友達をつくと共に、子ども会等のリーダーとなることを目的としています。

この研修では、佐久市社会教育委員の原英正さんが講師をするということで、数名の社会教育委員と一緒に見学しました。避難所開設のワークショップの前に研修生それぞれが今日の活動に対する目標を立ててから「災害に対するイメージ」について考えました。研修生からは「災害にあった時、どうすればいいか 何をすればいいかを学び、これからは活かしたい」「避難の仕方、避難所のことを知りたい」「防災の備えや対応を理解したい」などの目標があげられました。また、イメージについては「こわい・心配・危険・早く逃げないといけない」といった発言がありました。講師からは、「こわい、心配という気持ちを持つことや、自分が危ないと思ったらすぐ避難することが大事です」という話がありました。



それからシート一枚だけの床に横になった時、どんな感じかを体験すると、「硬い、冷たい、とても寝られないよ」という感想を聞きました。



いよいよワークショップ開始！講師から聞いた段ボールベッドの作り方のアドバイスを参考に集めた段ボール箱を使って、避難した時の自分たちの居場所を作る作業に、班ごとに取り掛かりました。50分程度で4つの班の居場所が完成し、「特徴や工夫した点」などを発表しました。



**【奮闘中】**



**【完成しました】**



**【ドキドキの発表】**

完成した居場所はそれぞれ工夫がされており、「格段に暖かい段ボールを筒状につなげたカプセルホテルタイプ」や「しっかり囲われプライバシーを確保したトイレ」、「床に段ボールを厚く敷いて保温」、「大きい段ボールで更に個室を確保」など、大人の発想では思いつかないこともたくさんありました。

最初は、動きもぎこちなく何をしたらいいか戸惑っていた研修生も、だんだん意見を出し合い相談しながら行動していましたが、後半では自発的に動いたり協力し合う姿が多く見られるようになりました。その後、「段ボールベッド（市販品）の組み立て」と「避難所用テント立て」の体験を全員で力を合わせて行いました。

### 【段ボールベッドと避難所用テント】



活動の終了後、研修生からは「初めてのことや難しいことも、みんなで協力すれば達成できる」「相手の意見を尊重したり、困った時はアイデアを出し合えてよかった」「簡単にできると思っていたが、やってみたら難しく、どのようにしたらいいか考えとても勉強になった」「今日の研修から、避難しても自分たちで動いて手伝いができると思った」「段ボールを使ったベッドやトイレの作り方がわかりよかった」「避難所の不便な点を解決できるか班で考え解決できた」などの感想が出ました。感想から、今日の経験を災害の時や、困っている人がいたら役立てたいというリーダーとしての気持ちが研修生たちに芽生えてきたように感じました。

見学を終えて、子どもたちの柔軟性や発想力の高さと物事を吸収する速さに驚くとともに、自身の頭の固さを痛感しました。災害は起こらないことが一番ですが、もし起こっても今日の経験が研修生たちの的確な行動につながると思います。

研修生と見学させてもらった私たち、それぞれが災害について「楽しく学ぶ」ことができた研修でした。